

自治会運営における改善事例とポイント

令和7年3月
飯島町役場 地域創造課

◆ 加入金を0円とする

・金銭的な負担があることによって生じる自治会加入への抵抗感を低減することができます。

◆ 毎月の集金をやめ、集金頻度を下げる

・集金の頻度を毎月から数カ月に1度とすることで、集金に係る負担を軽減することができます。



- 集金頻度を下げすぎると、一度に集まる金額が大きくなってしまい、かえって負担が大きくなる可能性があります。
- 各戸指定の口座から自動引き落としにより集金を行う自治会があります。

◆ 募金は個別に徴収する

・自治会運営に係る経費と外部団体への支出を切り分け、自治会運営をより分かりやすくすることができます。

例：各戸に募金用封筒を配布し、任意で募る 等

◆ 高齢世帯や事情がある世帯の自治会費や作業を減免する

・基準を設けた上で自治会費や作業の減免措置を講じ、やむを得ない理由から自治会を去ってしまう人を減らすことができます。

基準の例：75歳以上の高齢者のみの世帯、障がいや健康上の理由のある方のみの世帯、その他個別の事情が認められる世帯 等

◆ 自治会未加入世帯から継続的にゴミ集積所管理費を徴収する

- ・交流を維持することで、未加入世帯の人がどんな人なのか分からないことから来るトラブルを回避することができます。
- ・自治会活動の一環として管理しているゴミ集積所管理費を徴収することで、管理を担う自治会内で生じる不公平感を低減することができます。

しかし・・・

地域社会を維持していくためには、未加入世帯への対応を整備することよりも、地域に住むすべての方に加入してもらい、活動していける運営が求められます。

そんな自治会の在り方こそが理想であり、町が目指す最終目標でもあります。